

令和3年6月定例会一般質問

通告3

質問 インターネット環境にない町民への情報伝達について

答弁 地デジ広報について調査研究を進めてまいります

5番 佐久間 ふみ子 議員

【質問：佐久間 ふみ子 議員】

5番、佐久間ふみ子でございます。

インターネット環境にない町民への情報伝達についてお尋ねします。

先月から65歳以上高齢者の新型コロナワクチン接種が始まりました。接種券と案内書が届き、ワクチンの接種予約を電話でとった方、Web予約した方がいました。ある方は、コールセンター予約電話がなかなかつながらず、いよいよ困って直接コロナワクチン対策室の保健センターに行ったそうです。そこで事情を話したら、若い職員の方がパパッとWeb予約してくれたと安心して帰ってきたそうです。また、何十回電話してもつながらないので、ワクチン接種を諦めようと思っていたところ、御近所の方が様子を見に来てくれて、自分のスマホでWeb予約してくれたなど、町内あちこちで同じようなことがあったと聞きました。



今やスマホやネットは生活全般になくてはならないツールの一つとしてありますが、今回の65歳以上のワクチン接種の受け付けでインターネット環境にない高齢者がいることも認識できたと思います。

町は広報紙、ホームページ、SNS、フェイスブック、FMはなどさまざまな手段により情報を発信していますが、パソコンやスマホを持っていない方や、電子機器の操作が苦手な方などへ緊急時の情報発信はどのようにお考えでしょうか。

先月、新聞で根室市の地デジで行政情報発信の記事を見て、家庭にあるテレビで我が家の中の情報がいつでも見ることができる画期的な方法が載っていました。UHB北海道文化放送の地デジ広報を利用してインターネット環境に関係なく、だれにでも一斉に町の最新情報を配信できるため、根室市では災害や緊急時にさまざまな方法で情報を入手できるよう、伝達手段を増やすことが重要と考えていると5月から実施しています。

道内では26自治体が導入していて根室市は管内初とのことです。我が中標津町もぜ

ひ地デジ広報を導入して、より多くの町民と情報共有していくことが必要ではと考えますが、いかがでしょうか。町長の見解をお聞かせください。

【答弁：町長】

佐久間議員御質問のインターネット環境にない町民への情報伝達について御答弁申し上げます。

近年、ＩＣＴの進化に伴いまして、パソコンやスマートフォンといった通信機器を活用した情報発信が主流となる中で、特に緊急時における情報伝達として即座に情報発信できるデジタル媒体の活用は非常に有効な手段であることから、町としましてもフェイスブックやツイッターといった、ＳＮＳを活用した情報発信を強化しているところでありますが、議員御指摘のとおり、パソコンやスマートフォンといった情報端末を持っていない、持っていても十分に使いこなせない高齢者や、障害者の方々等への伝達手段の確保が課題となっております。

高齢者にとっては、テレビやラジオが主な情報通信媒体であることから、コミュニティFMラジオ、FMはなを活用した情報伝達を行っており、一定の成果が得られている感じであります。

また、簡単な操作で登録が可能な携帯電話の緊急情報メール、キキボウへの登録についても、さまざまな場面で啓発させていただいているところでございます。高齢者等の情報弱者も含め、町民に対し迅速確実に情報伝達を行うため、さまざまな媒体の利点や強みをうまく活用するとともに、支援を必要とする方に対し地域で情報伝達を補い、支え合う体制づくりも重要だと考えております。

議員御提案の地デジ広報につきましては、平成30年4月よりUHB北海道文化放送がテレビの地上デジタル放送を活用し提供しているサービスであります、道内の複数の自治体が既に導入をされていることは認識しております。

パソコンやスマートフォンの操作が不慣れな方であっても、テレビであれば簡単に見ることができるというものでありますので、今後、先行して導入した自治体の運用状況やコスト面も含め調査研究を進めてまいりたいと考えております。

一方、このたびのコロナワクチン接種においてインターネットによる予約が非常に有効であったことも事実であり、また国においても9月にデジタル庁を創設し、だれもがデジタル化の恩恵を受けることができる社会をつくるため、高齢者らにスマートフォンやマイナンバーカードの使い方を教える講習会を開催するといった取り組みも予定されております。

このような国の取り組みも踏まえ、さまざまな情報伝達手段を効果的に用いるとともに、高齢者を始め、デジタル弱者に対し情報通信機器の利用促進を図ることもあわせて検討してまいりたいと思っておりますので、御理解をお願い申し上げます。